

2024 年度版

通室の手引き

ぷれいんふぁんとクラス

「お子さまが自分でできる」をもとに 作成した手引書です。

ルールだからではなく お子さまが自分自身の主人公になるためには？という観点で
お読みいただき、 教室仕様ということではなく普段の日常生活の自立にも活用ください。

お読みになった上で疑問点・補足が必要な等は お尋ねください。

(これまでお配りしていたものを 一冊にまとめました。 重複している部分もございます)



モンテッソーリ子どもの家 ぽこあぽこいんふぁんと

複製・転写・掲載禁止

ご家庭との連携で・・・

本来モンテッソーリ教育は 継続された中でおこなう必要があります。 そのため、月数回の教室ではご家庭での ご理解や ご協力 連携体制が 必要不可欠となります。

本手引きをご理解いただき お子さまにとってより良いものとなる 通室づくりに努めてください。

モンテッソーリ教育は、子ども自身が自分の主人公となり、「自立していて、責任感と他人への思いやりがあり、生涯学び続ける姿勢を持った子」「最後まで粘り強くやり遂げる子」を目的に取り組みを進めていきます。 教室での関わりを ご家庭でも 是非とりいれ 教室での活動が 教室だけのものにならないよう ご協力をお願いします。

1. 家でも関わりの中で自立を培えるようにすること＝それは、日常生活でのひとつひとつを「自分でできる」に向かって 自分ですることです。 これは成長する大きな要素です。

例えば・・・

- 明日着る服を自分で用意する／ハンカチを選んで 自分でポケットに入れる
- 幼稚園からもらったお手紙を自分でカバンから出してお母さんに渡す
- 鞆に入れる荷物は(日常・遠足 全て) お母さんと一緒にでもいいが見守りまでにして自分で入れる。

2. 挨拶が 自信をもってできるように 積極的に交わすようにしてください。

「おはようございます」「いってきます」「ただいま」「ありがとう」

近所の人や施設(図書館や児童館)の人に 「こんにちは」「おねがいします」「ありがとうございます」「さようなら」等・・・

おうちの方が先に気持ちよく言うと 子どもも自発的にいうようになります。

3. 分からない時に「わからないから手伝ってください。(教えてください。)」と、いった事を言えるようになりましょう。 幼稚園になったら 「何が」「どう」「わからない(できない)」かを 言えるように教えながら練習できるようにしてください。

4. 誰もが最初からうまくいきません。 1度できないから「できない」と決めつけず ほんの少し手を添えてあげるとできることもあります。 見守ってあげることで安心感が得られ 勇気が出てきます。「まだできない」と、いったネガティブなことを口にせず、 何度もでも挑戦していい ・ 挑戦すると出来るようになるんだ と、笑顔で「大丈夫」と 励まし暖かく見守ってあげてください。

5. できた時には 大いに「できた」ということを 口に出して 喜びを共感してあげて下さい。上手下手で 褒めたり評価する言葉をいったり改善点をすぐに言いません。

6. 冒頭に書いた「ご家庭への取り入れ」は、 教室でのお仕事(教具や取り組み)ではありません。ご家庭で教室の取り組みをなさることの無いようお願いいたします。 家でしかできないことを取り組んでください。

7. 荷物は必ずお子さまが持ち、歩いて入室してください。 また、ベビーカー・だっこでの通室はご遠慮ください。 退出後も 荷物を受け取らずに 車(自転車)まで、 自分で持っていくよう促してあげてください。

「おしごと」について 知っておいてください

「おしごと」は、大人のような生産を生むもの 誰かのためにするものではありません。子どもの成長や発達段階に応じて 自己形成を目的にして 取り組むものです。そのため、保護者の方が してほしいと思うものがあっても子どもを誘導してはなりませんし、同じものを繰り返し していても 違うものをする提案もしてはなりません。子どもの取り組みだけでなく 自分を信じようとしている その積み重ねを 妨げることになります。また 大人の「上手・下手」といった眼差し(言動)も おしごとでは、良くありません。それは子どもが自分で行うことです。もちろんそれに気づいていく関りを 行うことも必要ですが、それは教師の仕事であって おうちの方は 暖かく見守っていただくことが こどもにとって最大の 励みとなります。

※どうしても気になる、ご家庭での自己訂正の方法については、ご相談ください。

《お仕事では・・・》 ◇印の項目は家でも取り入れていただける項目です

- お仕事は好きに使いません。はじめの時は使い方を先生に提示を受けるようにします。
- 基本自己選択ですが、発達に合わせて 紹介や 誘いかけも行います。
- 一度選んだものは 刃がたたない物でない限り最後まですることが約束です。
- 途中で嫌になったからと 放りだすことは NG です。またうまくいかないことが続いて 嫌になることもありますが、そうした出来事に会ったときこそ 自分と向き合い**成長するチャンス**です。暖かく受け止め 力強く励ましてあげてください。
- ☆ 終わったときには、元の場所に戻すこともですが、お盆の中も次の人が気持ちよく使えるために元あった状態に戻します。(例)手拭きタオルは 洗濯物 BOX に入れ新しいものを入れておきます。
- ☆ お子さまが活動している間は、間違っている危険や咄嗟でない限り不用意に声を掛けません。
- ☆ 安易に「すごいね」「上手だね」とは声をかけません。これをする と 子どもの自己判断が鈍ります。
- ☆ 「これでいい?」「〇〇していいですか?」という返事に「いいよ」は 言いません。この返事は 子どもの判断力・決断力を奪ってしまうだけでなう 指示行動を促していることになります。
- ☆ おわったことを「できました」とは言いません。自分で納得できたときに「できた」という言葉を使います。
- ☆ 物が落ちたりしたら必ずお子さまに取ってもらいます。大人が取ってはいけません。拾いやすくするようなお手伝いも不要です。子どもが、そのままにしておくようなときは「落としたら拾おう(拾います)」と伝えます。
- ☆ 子どもがしないといけないこと(かたづけなど)は「〇〇しよう?」ではなく「〇〇します」とはっきり伝えます。集中や関心が減り遊びになる手前で片付けを促す場合もあります。
- ☆ 子どもが言いたいことを先に代弁しません。また勝手に理由付けしたことを与えないように気を付けてください。最初はつたない表現でも 自分でつたえることが大切です。代弁ばかりしていると 語彙の少ない 自分の事がいえないう子になります。
- ☆ 誰かと話しているときに 割り込んで話しかけることを受け入れません。近くで待つか話せるタイミングで話すといった 社会性を身に付けていただきます。

練習を始めましょう

1. 着る服の選びと着脱

自分で着る服は自分で選べるようになります。 とんでもないチョイスにならないよう 2 択・3 択といった選択から やり取りをしてくださってもいいでしょう。

2. ルールを守る

決めたのに この時は許してこの時は叱るということなく 一貫して接しましょう。 これは子どもだけではなく大人も守ることが含まれます。

3. 自分の名前がいえる(インターフォンで言ってもらいます)

「〇〇 〇〇です」とフルネームで言えるようにしましょう。 大人が「〇〇ちゃん」「〇〇くん」と言っていると自分のことを「〇〇ちゃん(くん)」と言ってしまいます。 そんな時は「〇〇」と普段から「ちゃん(くん)」を外して呼んであげてください。また、話すときには じぶんの名前を指すときに名前をいうのではなく「ぼく」「わたし」と代名詞を使うように練習しましょう。

4. あいさつ

「おはようございます」「こんにちは」「さようなら」「いってきます」「ただいま」「ありがとう」など その時に使い分けていえるように いつまでも促しの後言っていることのないようにしましょう。

5. 正しいことば

子どもは普段使っている言葉が正しい言葉と肯定的に吸収します。 またある程度大きくなると 間違いは本人のプライドを傷つけ 訂正していく無駄な労力を要さなければならなくなり、 こどもにとって大変困難なことを強いることとなります。 訂正するのではなく 普段の中で正しく使う事が スムーズで最短な道です。

《赤ちゃん言葉からの脱却》

わんわん→犬 くっく→くつ ぞうさん→ぞう ばあば・じいじ→おばあちゃん・おじいちゃん ブーブー→くるま・自動車 等

《一助数詞—なんでも「〇個」で数えない》

なんでも「〇つ」や「〇個」で数えず 「〇枚」「〇本」「〇冊」と正しい助数詞を使いましょう。

《一形容詞—なんでも“大きい・小さい”であらわさない》

何でも「大きい・小さい」ではなく ひろい・せまい、 長い・短い、 太い・短い、 深い・浅い 重い・軽い 等 出来るだけ適確に使い分けて 聞かせてあげてください。

《一指示語—こそあどことばはできるだけ使わない》

多くの子どもは 指示語を多く使います。 いきなり指示語から始まることもあります。 物や事柄には言葉で表すことができます。 そのものの正しい名前も教えてあげてください。 お味噌汁を掬うやつ→お玉

6. 日常の会話(やりとり) 特に要求

「うんうん」とお子さまが言うと お母さんはわかりますが、 他の人には伝わらないことも多くあります。コミュニケーションを活発にすることは お子さまの言語だけでなく、脳の発達には必要不可欠です。 〇〇が欲しいの?と先に尋ねて「うん」「うん」といった yes/no クイズにならないよう わかっていても「どうしたの?」と尋ねて 「〇〇が欲しい(ください)」といった要求がいえるように 練習してください。 何かができずに癇癪を起しそうになっていたら「手伝って(ください)」という事を 伝えて言わせてあげてください。

7. 「見ること」「まつこと」「順番」

何でも やってあげるのではなく お子さまにさせたいときは 「みててね」と言って見せて 元に戻してさせてあげましょう。 また公園や児童館等で 勝手に人のものに触りそうになったら 勝手に触らないことの練習。断ったり尋ねてから触ること、また知らない子が触ってきたら 「今〇〇君がつかっているからごめんね」といって守ってあげるのもよいですね。 お母さんの家事などですぐに手を離せないときなど 「まっててね」と言って ほんの少しの時間(数秒~数分)待つ練習もしてください。(絶対に時計の針が〇〇まで待つ)といった訓練にならないようにしてください。 いずれも日常の中で繰り返し行うことです。

8. (大人側)甘えとわがママを分ける

甘えていい時と わがままな時 それを分けて対応せねば 子どもは 大人の足元を見て ごねれば言う事を聞いてくれると 学習します。 正しく 甘えられる(信頼して頼れる)ようにしましょう。

9. (大人側)頑張っているときに 勝手に手助けをしたり 言葉をかけない

危なくない限りは子どもが一生懸命何かをしている時(それがうまくいってなくても)には 声を掛けたり不用意に手伝ったり 安易な褒め言葉を掛けないようにしましょう。

10. (大人側)いつも音楽をつけていたり テレビをつけっぱなしにしない

「小さな音ならよい」という事はありません。 お子さまがテレビを見ていないとき おもちゃで遊んでいる時、食事の時は音が鳴っているという状態を決して作ってはいけません。 これを知らずに続けていると 集中ができない子を作ってしまいます。 英語のかけ流しも同様です。 絶対的な無音ということではありません。生活音は OK ですが、 不用につけっぱなしになっている・視聴以外のことをしているのについているメディアの事です。

11. (大人側)知らないことは何度でも伝える・毅然という。ただし、わざとは きちんと叱る。

大人には不都合で当たり前のことも知らずに興味のまましていることもあります。 それが何か説明してあげたり なぜよくないのか まずは伝えるという点で 叱らず丁寧に そして毅然と伝えましょう。「○○すると鬼が来る」「○○するとおこられるよ」という言い方や「○○くん」と名前だけ言って要件がぬけていたり、 だめでしょ! でおわっているのは絶対に NG です。 子どもはまだまだ理性が利かないことがおおいもの、 何度でも伝えることが必要です。 ただし、わかっているけれど「わざと」しているときは 知っていたことに叱る(毅然と伝え)、必要があるとともに 何度もする理由が他にあるので そこを見てあげる必要があります。

12. 叱る=分かるように 理由を明確にして 毅然と伝える

わざとしているときや 何度も注意しているにもかかわらず したいからという理由だけで人に迷惑をかけてしまっているときは 毅然と叱りましょう。 感情で怒ってはいけません。 但し、 別の内面からくる理由で 行っているときもあります。 そんな時は お気軽にご相談ください。 叱っても 逆方向に進む場合を避けねばなりません。

13. 荷物の管理は 考え方の管理と社会性

教室の荷物だけでなく 幼稚園や学校の準備や片付けを 大人がしないようにしましょう。 一緒にするのは大歓迎ですが、特にカバンからの出し入れは大人がやってはなりません。 大人が勝手に手を入れて出し入れしていると 子どもも勝手に人のかばんに手を入れてもいいと思います。 また 自分の持ち物なのに 「ない、お母さんがいれていない」ということになります。 モンテッソーリ教育(主体性教育)とは真逆の 人任せ主義 人のせいにする子になってしまいます。 どこに何があるか 知っていること それを扱えることは ゆくゆくは自分の考えや行動も そのように 管理できるようになっていきます。 それは 先に出来ることではなく 「今」の積み重ねであり、 もうスタートしておくべき 事なのです。

ぽこあぽこ せいのみなさんへ

- じぶんのカバンは、おうちから じぶんで もってきましょう。 かえりもじぶんで いえまでもってかえります。
- きょうしつに きたら げんきに あいさつをしましょう。 おうちでもれんしゅうをしてください。
- きょうしつでは はしりまわったりしません。
- さわりたいからと なんでもすきかってにさわりません。 おともだちのおしごとだったり、せんさい(こわれやすいもの)だったりして つかえなくなると みんながこまります。
- こまったことや わからないこと、 はじめのての おしごとがあれば せんせいに たずねましょう。
- おはなし したいことは えんりょせずに いいましょう。 でも、ひとがはなしをしているときに そのおはなしをまって はなしかけるように、また ちかくにいて はなすように しましょう。
- かぜをひいたときは、マスクをかならずしましょう。
- おやすみをせず、げんきにかよいましょう。

★風邪をひいたときには 概ねそうでも 必ず医師の診断を受け その旨をおしらせください。

★ご家庭判断のないようお願いします。



服装

※ キャラクター性の強いものフリルが多く取り組み時に気になるものは避けましょう。

- 体にあったサイズの洋服を着ましょう（大きすぎるものは お仕事の作業だけではなく、手洗いやトイレにも 差し支えます）
- 教室には 必ず靴下をはきましょう（上靴もはきますし、自分の家以外の場所では靴下をはくのがマナーです）
- 季節の変わり目は さむくなくっても はおり物をもって来るなどして 調整が出来るようにしましょう。
- サンドル（スリッパ）ではなく、 靴をはいて通室しましょう。

★マスクを着用するときは鼻まで覆うようにつけましょう。

★通園・通学時の服のままでなく 着替えて 通室してください。



持ち物

てさげかばんの中に…

- 作品帳
- 出席ノート
- うがい用のコップ
- きがえ（必要な人・念のために 年少さんまでは、必ず1セット袋に入れて）
※鞆に入れた時に他のものが自分で出し入れしやすいように しておいて下さい。
- 上靴（上靴袋）別に持ってもかまいません。
※色形の指定はありませんが キャラクターのないものにして下さい。
※大きい人で扱いも動きも大丈夫な人は 自分に合った大きさものであればスリッパでも OK です。

ポケットには、

- ポケット（のある洋服）に ハンカチ・ティッシュを入れておきましょう。小さな後ろポケットで すぐに落ちるような洋服は 適していると言えません。
扱いが自分でできるなら ポケットポシェットをつけてもらっても OK です

1.体調がよくないときは**健康チェック表**(教室提出用)に記入して提出してください。

2.マスクだけでなく 鼻水ができるときはティッシュの**予備**も袋に入れてカバンに 入れておきましょう。





持ち物ポイント

くつ袋



○形の規定はありません。 てさげ型・巾着型・バニティ型 他、 どのようなものでも結構ですが、開閉並びに 靴の出し入れがスムーズにできる **サイズ・素材**のものを用意ください。

上靴

○色や 形状は 問いませんが キャラクターの着いているもの 靴底に絵が描いてあるもの(左右を判別する絵が靴底に合っても子どもには分かりづらいものです)は、 おやめください。

○その硬いもの厚いものは 歩いた時に大きな音になることと 重くぬぎはきしにくいので 上履き用としてはふさわしくありません。



お着替えセット

○セットにしてビニール袋に入れて置いていただきたいのですが、 それだと 作品帳などの出し入れが一人でできない場合があります。

○そんな時には 大きなジップロックに 着替えと濡れた時に入れるスーパーの袋をできるだけ平たくたたんで入れ、 空気を抜いて 封をして入れるようにしていただくことで しやすくなります。

★洋服は、季節に合ったものを入れるようにしてください。

★濡れたものは 水洗いは行わず(余計に重くなります)そのまま袋に入れます。

→たまにシャツまで濡れる方がいます。 その時のために 1セットはシャツ・肌着も入れておいてください。

もしものの時の…着替えの貸し出しを扱いについて

基本はお持ちのものを使っていただきますが、 足りない場合は教室でも貸出いたします。

洋服類…洗濯をして返却してください

パンツ…直接肌に触れる衛生品ですので 新品のもので返却をお願いします。履いて帰ったものはご家庭用としてお使いください。



うがい用コップ

- 布巾で包んで、ビニール袋に入れてください
(QR を読み取って説明動画をご覧ください)



ハンカチ・ティッシュ

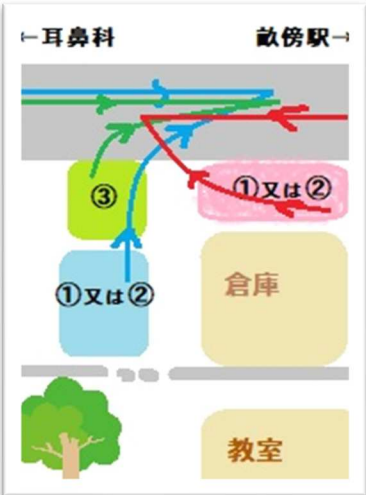
【ハンカチ】

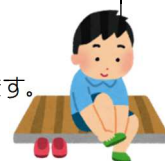
- お子さまのポケットに入るサイズのものを選んでください。
- 教室では、まだきれいにたためない人は 指先を使ってくるくと巻いて ポケットに入れています。
- タオル地のものは 正方形の小さなものでもお子さまのポケットには大きなものとなります。9×17 センチくらいの長方形のものが 扱いやすいです。

【ティッシュ】

- お子さまのポケットに入るもの
- 記名を必ずお願いします。(落として 本人が自分のものという自覚のない場合が多いため)

活動の流れ

-	おこさまのおしごと	大人のおしごと
来るとき 駐車	●カバンを(自分で)持つ ●靴を(自分で)はきましょう 	●荷物はお子さまが自分で持ち出したり片づけられたりできるようにしてあげてください ●お子さまができる時間を用意してあげましょう。 ●車は左図のようにお停めください。 ●少し離れていますが、1台分契約駐車場があります。 ●大きな車、満車の場合は、近くのコインパーキングのご利用をお願いします。(耳鼻科駐車場への駐車は絶対になさらないでください) ●倉庫前にお停めになるときは 極力 北寄り且つ倉庫よりに停車して乗降は道側で行ってください。大きい車の方・不安な方は1番目でも②にお停めいただいて結構ですが、必ず奥まで(車止め)入れていただき、もう一台が はいるようにしてください。 ●②・③の縦列になるときは お声を掛け合って安全にとめていただけるよう協力をお願いします。 ●いっぱいの場合は、お近くでお待ちいただき順に入ってください。(退出時も同様です)
入室 (5分前 ～)	●インターフォンを鳴らし ●「おはようございます。〇〇です」と言います  だっこはしなくても カメラに映ります。	●代弁せず、お子さまが言えるようにお手伝いください。言えなくても言おうとすることが大切です。(お家でも練習してください) ●入室は5分前～にしています。それ以前は準備等行っておりますので待機をお願いします。 ●慣れない間はいつまでも見送らずお母さまの方から「いってらっしゃい。お買い物に行ってまたむかえにくるね」と言って離れてあげてください。
玄関で	●靴を脱ぎ、脱いだ靴は端に寄せます。	●お子さまが自分でするように声をかけ見守ります。
手洗い	●手洗い・うがい・消毒	●「端に寄せる」は次のひとへの配慮で社会性につながります。
入室 身支度	●カバンを棚に置き出席カードを出す ●今日の日付を言ってシールを貼る	●前のひとがしているときは、遊んだりお話ししたりして待たず、並んで前のお友達の様子を見るようにします。 ●「次どうぞ」や「ありがとう」の声掛けをします。
ご挨拶	●「こんにちは。よろしくお願いします。」と姿勢を正して先生とします。	●大人も一緒にします。 ●提出物があれば 相手のほうに 向きを変え 「〇〇です。お願いします」と言って 両手で渡します。
おしごと	●自己選択活動(おしごと)をします ・お仕事を選ぶ ・はこぶ ・イスを両手で出す(引きずらない) ・初めてのお仕事は先生に提示をうける ・納得するまでする ・片づける(元あったようにお盆の中を整える) ・イスを入れる ・お盆をもって元の場所におく	☆お子さまが行う活動です。横にぴったりいたりいるとお子さまが自立しません。必要な時にはサポートし、必要がない時には離れます。 ●いつも「これにする?」といった誘導をせずお子さまの選びを待ちます。何度も同じものを選ぶのも選択です。 ●しっかりお盆を両手で持ち机まで運ぶのを見守ります。手を添えててつたわないようにすることが大切です。



ベル (先生のお話の合図)	●聞こえた場所に座り、先生の方を見る ●椅子に座っている人は手を止めて膝の上 ●移動中のひとは床に座って手は膝の上	●お子さまが取り組んでいるときのリアクションは行わないようにします。お子さまが振り向いたりしたときは笑顔でうなずいてあげたり、一通りできたら「できたね・もう1回する?」と静かに尋ねます。 ●周りの雰囲気を見てだんだんできるようになります。周りを把握する時間も子どもには必要です。声掛けをしたり促したりするのはそれからです。
帰りのお集り	●カバンをもって集まる ●絵本・紙芝居・手遊びなど ●名前を呼ばれたら「はい」と返事をして「ありがとうございます」と言ってもらう	●カバンは座った場所の後ろに置きます。 ●カバンに入れるのも自分です。時間がかかってもできそうなら見守ります。
挨拶	●姿勢を正して挨拶をする	●促すばかりが補助ではありません。大人も同様にするから子どももしようとするのです。
帰りの身支度	●トイレ・手洗い・うがい・消毒をする	
靴をはく 門で	●自分の靴を広いところに持っていき履く ●いっぱい場合は前のひとのしていることを見て静かに待ちます。 ●「ただいま」という	●「ただいま」といった後に「おかえり」と言ってあげてください。 ●報告の間は あそばれてまつのではなく 手をつないでいっしょにいてください。
帰宅	●自分の荷物を置くところまでおしごとです	●降車後も荷物を代わって持たず自分で家の棚まで持ち入り、片づけるよう声をかけてください。 ●手紙があるときは自分で出すようにし、大人がしないようにしましょう。



最初からできる人はいません。一つずつコツコツ積みかさねるからできるようになります。お子さまは「自分でできる」ことがとてもうれしいです。お子さまとその喜びをぜひ感じてください。



契約駐車場について

教室前がいつぱいの場合や 停めにくい場合は 下記駐車場もお使いください。



入室の前後

通室の前

メールにて 1 週間の お子さまの様子(簡単で結構です)・ お母さまの関わりの中での疑問点などを お送りください。

通室の後

退出時に口頭御報告をします。

メールにて 教室で取り組んだ様子を写した写真をお送りします。

メールの設定を確認ください

- ① 教室のメール pocoapoco.infant.info@gmail.com が着信できるようにしてください。
- ② 教室とやり取りくださるメールのプロフィール設定で お名前を(特に姓)が 旧姓になっている場合が多いので確認の上 必ず **現在の姓名**となっているようにお願いします。
- ③ 写真添付の際に サイズ制限がありますと 遅れない場合があります。 サイズ制限(特にキャリアドメインの方)を最大にするか、 gmail のような フリーメールを 教室用にご用意ください。
- ④ 必ず送ってくださるメールの題名に お子さまの名前とご用件をお入れください。
名前がない場合・件名がない場合は 事故防止のため開かず削除する場合がございます。

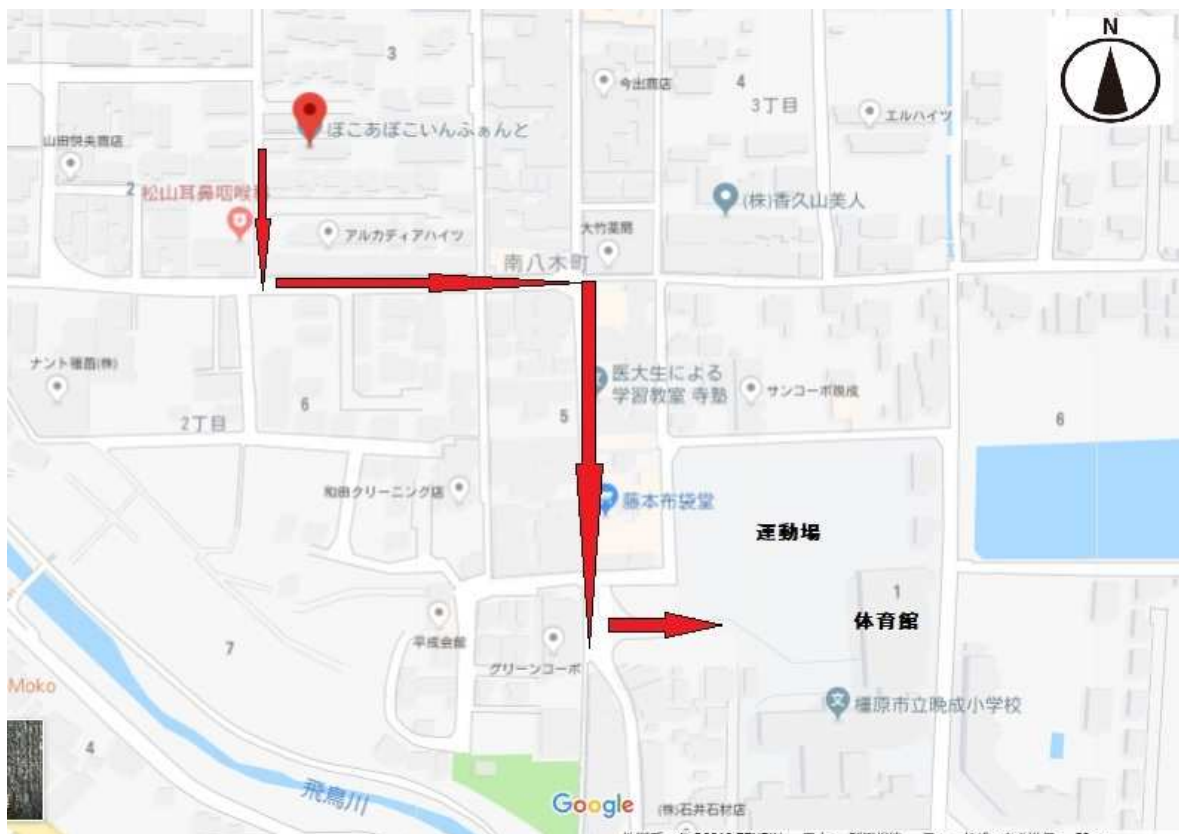
災害時の避難所に関するお知らせ

大規模地震発生時

1. お仕事(レッスン)中に発生した場合、レッスンを直ちに中止し、お子さまはいったん教室で保護します。
2. お子さまの安否・教室の対応状況については、使用可能であればメール、電話などでお知らせいたします。
3. 道路・交通機関などの状況により 直接保護者が引き取りに可能なご家庭は保護者が来室時に帰宅とします。
4. 教室や周辺の状況によって、段階的に、松山耳鼻科駐車場付近、または下記避難所に移動する場合があります。その場合は、使用可能であればメールなどでの連絡、出来ない場合は教室玄関(門)に掲示をします。(自治体からの要請により他の場所へ避難する場合も同様にお知らせし、行います。)
5. 通室・帰宅中に地震が発生した場合は、「帰宅」を原則といたします。

橿原市立晩成小学校 体育館または運動場

奈良県橿原市小房町 1 - 5 4



入会申込書控え

(ぷれいんふぁんとクラス・ぽこあぽこクラス)

2023 年 4 月 1 日改訂

1. 入会規約

- 教室の活動に意欲的に取り組み お子さまの成長に前向きなご協力をお願いします。
- 教室への入室・退出、また前後で会う方々へ お互いにお子さまと共に積極的に気持ちの良い挨拶をお願いします。
- 住宅の中にある教室ですので、近隣の迷惑になる行為（立ち話や無断駐車）などはおやめください。お子さまを遊ばせるもの同様です。
- レッスン前後の駐車（場） またはその周辺・道中のケガや事故は保護者の方の責任でお願いします。また施設の破損等があった場合は修理費(実費)をお願いします。
- 教室に登録いただきました住所などは、教室運営上でのみ使用し、教室以外への譲渡など一切行いません。またいただいた書類は適切に管理・処理し、返却はおこないません。
- レッスン日は毎月指定日・指定回数で行います。
- 基本、日祝はお休みですが、場合によって祝日もレッスンがございます。お盆・年末年始はお休みをいただきます。その他 学会研修・講師の研修により レッスン日が変則的になることがあります。
- 場合により各月のレッスン回数を変更する場合がございます。（全体の回数は変わりません。）

2. 入退室について

- レッスン前は準備・その他に時間を使っております。早く到着されたからと入室されると準備が不十分となったり、レッスンをしている場合先の方にご迷惑となったりしますので駐車場または門前でお待ちください。入室は3～5分前とさせていただきます。
- レッスン終了時刻には遅れないようお迎えにいらしてください。

3. 欠席と振替について

ぽこあぽこ・ぷれいんふぁんとの方の欠席について、振替の設定がございません。
健康管理など気を付けてください。

4. 警報発令時のレッスンについて

- 天候により橿原市(奈良県北西部ではありません)に**暴風警報**並びに**特別警報**が**レッスン開始60分前までに**解除されなければ休校といたします。そのほかの注意報・警報は該当しません。その際のぽこあぽこクラス・ぷれいんふぁんとの振り替えについては当日以降の指定日に行います。(予報により前もって休校にする場合もございます)
- 対象警報が発令されていない場合や、対象時間に解除になった場合でも、当教室までの経路によっては、ご来校が 困難であったり危険が生じたりすることも想定されます。お子さま・保護者の皆さまの安全を第一にお考えいただくよう、お願い致します。 保護者の方のご判断でお休みになった場合は通常欠席扱いとなります。
- レッスン中の警報発令について、安全の確保を第一に考え可能な限り続行しますが、帰宅時に困難であろうと判断した場合、早い目にレッスンを中断しお迎え連絡をして帰宅いただく場合もあります。また保護者の方からのお申し出による早退も承ります。その際は、 自然災害にともなうレッスンのキャンセルとなり、振替・代替え・返金対応は設けません。ご理解をお願いします。

5-a. 伝染性感染症(インフルエンザ・手足口病 等)・新型コロナウイルス感染症に罹患・罹患ではないが疑わしい場合

- 医師より診断された場合、疑わしいと思われる場合、お通いの学校や園や施設が臨時閉鎖になった場合、家族内等で隔離がむづかしい・感染確率が高い場合等 欠席をお願いします。
- 医師より通室（登園・通学）可能と診断された上での 通室をお願いします。（個人判断のないように）
- 「とびひ」や「水いぼ」等 適切な処置をした上で通室可能と診断された場合は、指示された適切な処置を行っ

た上で来室し、その旨をお知らせください。適切な処置がされていない場合は、ご連絡をして、お迎えにきていただきます。

5-b. 感染対策・予防について

- 空気清浄機・サーキュレーターを稼働し、空気循環・換気を行います。空調も行いますが十分にならない為、体温調整ができる服装で お越しください。
- 入室後、退室前に手洗い・うがいをし、手洗い後には手指消毒を励行しています。 また、鼻をかんだり口を手を入れたりしている場合も手洗い・手指消毒を促します。
- 風邪症状がみられる場合（特に咳・くしゃみ）は、マスクの着用をしてもらいます。入室時にしていない場合でも着用を促します。
- 風症状がみられない場合でも 奈良県から出される各感染症情報から必要と判断した場合は、マスクの着用を促す場合があります。常に携行するようにしてください。

6. 休会について

- 休会をされます場合は、前月の20日までにお申し出ください。その際、在籍登録費として休会月数×1000円を休会開始月までにお納めください。21日～末日までのお申し出は、お月謝の20%を頂戴します。該当月に入ってから7日までの休会お申し出については、お月謝の50%、8日以降のお申し出は、お月謝の100%が必要となりますのでお気をつけください。（振り込み可） なお、入金がない場合は退会とさせていただきます。教室が認める特別な理由がない場合以外の最長休会月数は5カ月です。それ以降は自動退会となります。
- 休会だが、その間の子育ての相談をしたいという場合は、休会費+1,000円を休会開始月までにお納めください。（振り込み可）
- 無連絡で2ヶ月おやすみされた場合は退会とさせていただきます、お休みをされていた月の月謝を頂戴します。またその場合の再入会は、入会金が発生いたします。

7. 退会について

- やむを得ず退会される場合は、前月20日までにお申し出をお願いします。（例：3月末退会の場合、2月20日までにお申し出ください）
- 退会を申し出された方の再入会についての入会金はいただきません。
- 皆さんに気持ちよく通っていただけるよう、**当教室の方針や規約にご理解やご協力をいただけない、消極的・保護者さまのお子さまへの干渉が多い・著しく他の生徒へよくない影響があると判断した場合、レッスン中のお子さまの安全を確保できかねる場合は、途中退会をしていただく場合がございます**。その際、月途中で未使用の月謝等があってもお返しできません。再入会もしていただくことはできません。

8. お子さまの様子について

- お子さまのことで気にかかることは 報告時では長くなる場合など 教育相談(懇談)をお申し出ください。
- 教室講師は 医療的診断はできません。しかしながら かかわりの中で発達段階(身体的・精神発達面)において 気になる点は お子さまを理解するという意味で ご相談 ご質問させていただく場合があります。また何か診断がある場合は お子さまの理解に誤差ができないよう必ずお知らせください。 保護者様からの懇談(講師の見解)をお受けになりたい方は ご連絡ください。

9. その他

- 当校は入会規約・システムを必要に応じ変更する権利を有します。年度途中に行う場合は事前にお知らせをいたします。
- 教師の病気等の理由でやむを得ずレッスンを休校する場合は振替を行います。

以上

ホームページキー

preinfant-2024(現在は、別のキーとなっていて閲覧できません。3月末から見られるようになります)
教室生の方以外の方への開示を禁止します。内容を転写・転用・SNS等の記載を禁止します。

キーは 必要に応じて変更しますが、教室生皆様の利益を守るために扱いには 気を付けてください。